

H28教員採用選考(H27年度)

現状・課題

1. 特別支援学校の新規採用者は、「中学校・中学部」、「高校・高等部」の括りで、中学、高校と一括で募集しており、不本意配置(高校希望者が高等部等)のケースが生じていた。

今年度、支援学校希望の有無別に選考し、希望者の合格ラインを下げ、不本意配置を削減。しかしながら、一部校種教科で希望者の確保がなお困難な状況がある。

		受験者数	支援学校希望者数 ()はどちらでもよい	左記の内の 合格者数	支援学校の 採用予定数
中学校 中学部	H27教採	2,610	392	88	70
	H26教採	2,689	246 (373)	53 (74)	70
高校 高等部	H27教採	3,008	397	74	90
	H26教採	2,635	211 (499)	35 (86)	90

・ 中・高の合格最低点が大きく乖離する教科有。

2. 高校・高等部(社会)は、「地歴(日本史、世界史、地理)」と「公民(政治経済)」の科目区分で募集しているが、授業時数の少ない「公民」の教員配置に非効率が生じている。

3. 社会人経験対象の選考区分の受験要件は「法人格を有する会社等の正規職員(雇用期限の定めがない)」としているが、近年の雇用形態の多様化(契約社員、派遣社員等)に対応する必要がある。

※H26.9教育常任委員会 笹川G(維新)質問

4. 他府県に比し低倍率。特に小学校や中学校中学部技術、家庭など採用困難教科の受験者の確保が必要。

	H27教員採用選考					H26教員採用選考				
	採用予定数	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	採用予定数	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
大阪府	2,150	11,446	8,877	2,066	4.3	2,220	11,307	9,028	2,231	4.0
大阪市	685	4,048	2,855	889	3.2	520	3,759	2,327	590	3.9
堺市	319	1,733	1,133	327	3.5	286	1,758	1,216	319	3.8
豊能地区	120	1,076	803	119	6.7					
京都府	400	2,689	2,426	402	6.0	480	3,050	2,745	475	5.8
兵庫県	1,240	7,554	7,059	1,238	5.7	1,280	7,860	7,450	1,280	5.8
奈良県	442	2,846	2,455	442	5.6	450	3,166	2,371	450	5.3
東京都	2,910	18,012	15,596	3,269	4.8	2,010	19,096	16,284	2,598	6.3
神奈川県	1,090	7,479	6,406	1,206	5.3	1,255	7,522	6,393	1,413	4.5
愛知県	1,540	8,814	8,110	1,540	5.2	1,570	9,325	8,632	1,569	5.5

大阪府	倍率			
	小学校	中・技術	中・家庭	高・機械
H27教採	3.2倍	1.8倍	2.0倍	2.8倍
H26教採	2.9倍	1.6倍	2.4倍	2.1倍

1. 中学校・中学部、高校・高等部で併願募集(一部教科)

○ 支援学校及び中高の優秀な人材を確保するため、中高両校種の免許保有者には、中学校・中学部と高校・高等部の併願可とする。

なお、募集する教科は、支援学校の不本意配置の状況や筆答・実技の結果(中・高の差)等を踏まえ、「国語」「数学」「英語」「音楽」「美術」「家庭」とする。

<例>H27教採	採用予定数	合格者数(希望者)	差引	
中学部・数学	7名	11名	+4名	併願可の都道府県数 17/47
高等部・数学	6名	0名	▲6名	
【国語・一般】				
中学・中学部	(合格ライン344点/820点)	下位合格者得点 : 344, 353, 367, 370, 377, 384		(二次専門合格者平均205点)
高校・高等部	(合格ライン404点/820点)	上位不合格者得点 : 400, 399, 385, 381, (345)		(二次専門合格者平均226点)
【音楽・一般】				
中学・中学部	(合格ライン357点/820点)	下位合格者得点 : 357, 383, 391, 458, 459,		(実技合格者平均97点)
高校・高等部	(合格ライン517点/820点)	上位不合格者得点 : 516, 516, 514, 501, 480, (457)		(実技合格者平均134点)

2. 高校・高等部の「地歴」「公民」の資格要件を変更

○ 「地歴」「公民」の担当教員を効率的に配置できるよう、両免許の保有を受験の資格要件に変更する。 *募集表記案・「地理歴史(日本史、世界史、地理)・公民(政治経済)」

「地歴」「公民」の両免許の保有状況		<参考>
現職(高校60歳以下)	89%(690/801)	
H27教採(二次選考受験者)	76%(107/141)	社会で募集した場合の受験倍率予測 H27教採6.0倍→4.5倍

3. 社会人経験対象の選考区分の対象要件を緩和

○ 派遣社員や任期付社員を受験対象とする。
<参考>東京都、愛知県の社会人の対象は「常勤の職」

4. 受験者確保に向けた広報(PR)活動

- 合格者の多い大学、確保困難な教科の課程認定大学を訪問。若手教員(0B, 0G)の協力を得て、教員のやりがいなど実体験に基づいた教員の魅力を発信。
- PR動画(現在、小、高の一日を紹介)に中学、支援学校を追加。
- 受験説明会(大阪、東京、名古屋、岡山を予定)、大学の教職担当者向けの説明会を実施。[既実施]
- 教員採用選考、教員チャレンジテストや教志セミナー等の教員志願向けの取り組みをウェブページやメルマガで配信。[既実施]

H29教員採用選考(H28年度)に実施予定

【現状・課題】

- 一次選考において、人物重視の観点から全受験者に面接(H14教採～小学校、小学部 H16教採～全校種)を行い、筆答テストと合わせ合否決定。日程(7月の土日に一次実施)や面接員、運営員等の運営体制から、集団面接(30分/6人→1人5分程度)により実施。
- 現状の集団面接の課題
 - ・公平性の観点から全員に同じ質問となり、また、プライバシー保護の観点から質問内容に制約あり。
 - ・質問の流れが構築しにくい。(全員に答えさせてから次の質問)
 - ・1人5分と時間が短い。
- 時間をかけて個人面接をするには、面接員が増加し、面接員の質低下。

		対象者数 (H27教採)	所要時間	面接員数
現行	集団(30分/6人)	7,537人	約900H	延348名
	集団(40分/6人)	2,442人		
現行で個人面接(10分/人)した場合		9,978人	約1,663H	延556名

◇ 一次選考の選考方法等の改正

- 一次選考の面接を人物重視を徹底するため、集団面接から個人面接に変更。一人当たり面接時間を5分から10分に拡大。選考方法や日程等の選考の大枠を変更。
 - 面接員の質(=面接の質)を低下させぬよう、筆答テスト(択一式)で一次(個人面接)受験者を絞り込み。
 - 筆答テストでの絞り込みラインは、競争倍率、筆答テストの成績と合格率(一次最終)の関連性等を踏まえ、校種・教科毎に設定。
 - ・選考方法：(現行) 面接及び筆答テストの合計得点により合否判定
 - (改正) 一次選考を2段階で実施
 - <1段階>筆答テストの得点により面接対象者を決定
 - <2段階>上記対象者に個人面接(1人10分)を実施し、筆答テストとの合計得点で合否判定。
- ※H28教採(27年度)において、特別選考区分の受験者(一次は面接のみ、筆答免除)には、個人面接実施。

・人物重視の観点からの一次、二次の複数回の面接実施は、現行と変更なし。

・集団面接の課題を踏まえ、人物がより見極めやすい個人面接に変更する。

- ・試験日程：(現行) 面接テスト・7月中～下旬の土日祝、筆答テスト・7月最終日曜日
- (改正) 筆答テスト・7月第一日曜日、面接テスト・7月下旬の土日

H27教採・一次筆答日	主な地域等
6月第4週(6/29)	北海道
7月第1週(7/5.6)	新潟県、岡山県、栃木県
7月第2週(7/12.13)	関東、北陸、中部、奈良県
7月第3週(7/19.20.22.23)	九州、四国、中国
7月第4週(7/25.26.27)	近畿、東北

- 特選の廃止(身障特選、現職特選、大学院進学特選を除く)
- 講師経験等を加点(特支免保有につき既実施)

	現行(H27教採)		H28教採(案)		H29教採(案)	
	面接	筆答	面接	筆答	筆答(第一段階)	面接(第二段階)
実施日	7/12(他府県)・7/19～21(大阪)		7/27(大阪)		7月 第1土又は日	
対象校種等	全校種等 *7/12の他府県除く		H27教採と同時期		7月下旬の土日祝	
内容	一般:集団(6人・30分)/2人		H27教採と同じ		全校種等(一般選考区分)	筆答合格者+特別選考区分
	特選:集団(6人・40分)/3人		一般:集団(6人・30分)/2人	教職教養 30問択一・90分	教職教養 30問択一・90分	一般:個人面接10分/2人
		教職教養 30問択一・90分	特選:個人面接(10分)/2人			特選:個人面接(10分)/2人